

使用済燃料の取り出し

使用済燃料とは？

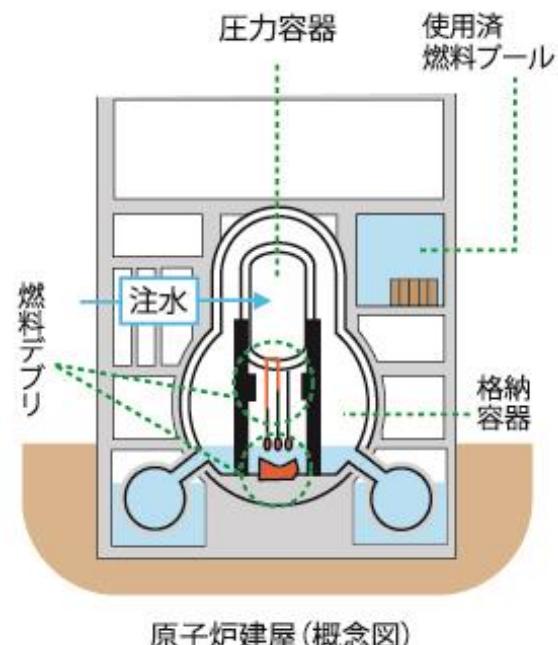
原子炉で発電に使用された燃料を「使用済燃料」と呼びます。

福島第一原子力発電所の各号機では、使用済燃料がプール内に貯蔵されており、それらを取り出すための作業が進められています。

使用済燃料プール内の燃料体数

2018年3月現在

号機	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料体数	392	615	566	0



原子炉建屋(概念図)

4号期の使用済燃料の取り出し

福島第一原子力発電所の4号機は、事故当時定期検査中であり、すべての燃料がプール内にありました。プールの水位低下はなく、燃料の損傷はありませんでした。容器内で燃料が溶け出しています。

2014年12月にすべての燃料について、共用プール等への移送が完了しています。



©東京電力



©東京電力

使用済燃料の取り出し準備

1号機

2018年1月より、1号機の建屋最上階のガレキを撤去する作業が開始されました。



©東京電力

2号機

建屋最上階の解体に向け、放射性物質の飛散防止を目的として「前室」を設置しました。



©東京電力

3号機

3号機では建屋上部を覆うカバー設置が終了しました。2018年度中頃から使用済燃料の取り出しが開始される予定です。

設置開始 2017年7月31日



©東京電力

取扱機設置 2017年11月12日



©東京電力

設置完了 2018年2月21日



©東京電力